

1 級

商業簿記・会計学

1 級 商業簿記・会計学

標準的な勘定科目の例示は、次のとおりである。なお、基礎簿記会計・3級・2級に示したものを除外する。

資産勘定	別段預金	外貨建売掛金	割賦売掛金	工事未収入金	積送品	試用品
未着品	半成工事	未収還付法人税等	貸付有価証券	差入有価証券	保管有価証券	貯蔵品
繰延税金資産	構築物	リース資産	のれん	特許権	借地権	商標権
実用新案権	意匠権	鉱業権	ソフトウェア	ソフトウェア仮勘定	満期保有目的債券	その他有価証券
子会社株式	関連会社株式	長期前払費用	出資金	創立費	開業費	株式交付費
社債発行費(等)	開発費	負債勘定	外貨建買掛金	工事未払金	役員預り金	未払中間配当金
借入有価証券	預り有価証券	繰延税金負債	商品券	保証債務	返品調整引当金	債務保証損失引当金
長期未払金	社債	リース債務	退職給付引当金	資産除去債務	純資産(資本)勘定	新株式申込証拠金
その他資本剰余金	資本及び資本準備金の差引	減価積立金	固定資産圧縮積立金	税法上の積立金	その他有価証券評価差額金	非支配株主持分
収益勘定	割賦売上	積送品売上	試用品売上	未着品売上	工事収益	仕入割引
為替差損益	有価証券利息	保証債務取崩益	投資有価証券売却益	負ののれん発生益	保険差益	国庫補助金受贈益
建設助成金受贈益	工事負担金受贈益	費用勘定	売上原価	工事原価	積送諸掛	退職給付費用
のれん償却	特許権償却	商標権償却	実用新案権償却	意匠権償却	鉱業権償却	ソフトウェア償却
開発費	開発費償却	社債利息	社債発行費(等)	保証債務費用	売上割引	為替差損益
創立費償却	開業費償却	株式交付費償却	社債発行費(等)償却	固定資産除却損	火災損失	減損損失
子会社株式評価損	投資有価証券売却損	〇〇圧縮損	その他の勘定	委託販売	受託販売	委託買付
受託買付	〇〇未決算	閉鎖残高	開始残高	追徴法人税等	還付法人税等	

資産勘定

別段預金

(高橋 知寿)

要求払預金の1つで、銀行業務に該当しない未決済、未整理の一時的保管金や預り金などを一時保管する預金。雑預金ともよばれる。

設例 当社は、取締役会の決議により、未発行株式のうち30,000株を1株あたり¥2,000で公募により発行することとした。当該新株の公募に対して、払込期日前に35,000株の申し込みがあり、取引銀行の別段預金に払い込みがなされた。

(借)別段預金 70,000,000 (貸)新株式申込証拠金 70,000,000

設例 上記の公募について、本日払込期日につき、応募株式35,000株について割り当てを行い、その払込人に割り当ての通知をするとともに、割り当てもれの申込人には、申込証拠金を払い戻した。なお、払込価額は、当座預金に振り替え、払込価額の2分の1を資本金に組み入れないこととする。

(借)新株式申込証拠金 70,000,000 (貸)別段預金 70,000,000
当座預金 60,000,000 資本金 30,000,000
資本準備金 30,000,000

外貨建売掛金

(市川 紀子)

外貨建の売上取引を行ったさいの売上債権。原則として、当該取引発生時の為替相場による円換算額をもって記録する。決算において、決算時の為替相場による円換算額で再換算する。

設例 商品\$100,000を輸出し、代金のうち\$30,000は以前受け取っていた前受金を充当し、残額は掛けとした。なお、為替レートは、輸出時：\$1 = ¥90、前受金受取時：\$1 = ¥100であった。

(借)前受金^{*1} 3,000,000 (貸)売上 9,300,000
外貨建売掛金^{*2} 6,300,000

*1 \$30,000 × ¥100 = ¥3,000,000

*2 (\$100,000 - \$30,000) × ¥90 = ¥6,300,000

設例 上記の外貨建売掛金を現金で回収した。回収時の為替レートは\$1 = ¥95であった。

(借)現金 *¹ 6,650,000 (貸)外貨建売掛金 6,300,000
為替差益 *² 350,000

* 1 $\$70,000 \times ¥95 = ¥6,650,000$

* 2 $(\$100,000 - \$30,000) \times (¥95 / \$ - ¥90 / \$) = ¥350,000$

割賦売掛金

(金子 友裕)

割賦販売を行った場合の代金の未収額。収益認識に販売基準および回収期限到来基準を採用している場合において、通常の販売による売掛金と区別するために用いられる。

設例 商品(原価¥300,000, 売価¥500,000)を、5回の分割払いで販売した。なお、割賦販売の収益認識は販売基準を採用している。

(借)割賦売掛金 500,000 (貸)割賦売上 500,000

設例 商品(原価¥300,000, 売価¥500,000)を、5回の分割払いで販売していたが、本日、第1回目の代金¥100,000を回収した。なお、割賦販売の収益認識は販売基準を採用している。

(借)現金 100,000 (貸)割賦売掛金 100,000

工事未収入金

(高橋 知寿)

請負工事などにおいて、工事収益の計上に伴って計上される債権。通常の商品販売などにおける売掛金に相当する。半成工事売掛金、半成工事未収入金、工事売掛金として処理されることもある。

設例 当期に工事完成基準を適用している工事(請負額¥700,000)が完成したため、工事収益および工事未収入金の計上を行う。

(借)工事未収入金 700,000 (貸)工事収益 700,000

設例 工事未収入金¥700,000を、工事の注文者が振り出した小切手で受け取った。

(借)現金 700,000 (貸)工事未収入金 700,000

積送品

(金子 友裕)

委託販売のために受託者に積送した商品。手許商品と区別するために用いる。積送に要した付随費用は、積送品に含める方法と積送諸掛として別に処理する方法がある。

設例 鹿児島商店は、委託販売のため宮崎商店に商品¥250,000を発送した。発送に伴う諸費用¥30,000は、小切手を振り出して支払った。なお、積送諸掛は用いないこと。

(借)積送品	280,000	(貸)仕入	250,000
		当座預金	30,000

設例 鹿児島商店は、委託販売のため宮崎商店に商品¥250,000を発送した。発送に伴う諸費用¥30,000は、小切手を振り出して支払った。なお、積送諸掛を用いて処理すること。

(借)積送品	250,000	(貸)仕入	250,000
積送諸掛	30,000	当座預金	30,000

設例 委託先の宮崎商店から、さきに積送した商品¥250,000を¥400,000で販売した旨の売上計算書を受け取り、当座預金への入金を確認した。売上収益は受託者における販売価額をもって計上し、積送品原価は仕入勘定に振り替える。なお、宮崎商店には売上高の10%の手数料を支払う約束になっており、積送諸掛で処理する。

(借)当座預金	360,000	(貸)積送品売上	400,000
積送諸掛	40,000		
(借)仕入	250,000	(貸)積送品	250,000

試用品

(吉田 智也)

試用販売のために、顧客に送付した商品。手許商品と区別するために用いる。試送時に、三分法であれば仕入勘定から、分記法であれば商品勘定から振り替える。

設例 当社は、試用期間1月間で光学機器@¥2,900,000(仕入原価@¥2,000,000)を試用希望者である静岡研究所と愛知研究所に1台ずつ発送した。当該光学機器の発送時には、手許の商品と区別するための処理をしている。

(借)試用品	4,000,000	(貸)仕入	4,000,000
--------	-----------	-------	-----------